

令和4年7月19日の大雨について

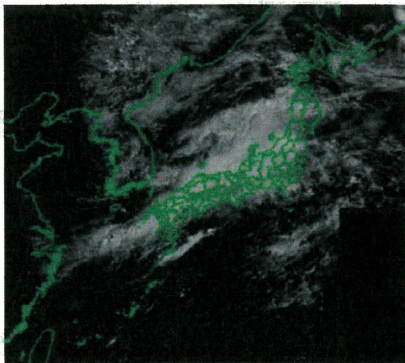
令和4年8月18日(木)

湖南省危機管理・防災課

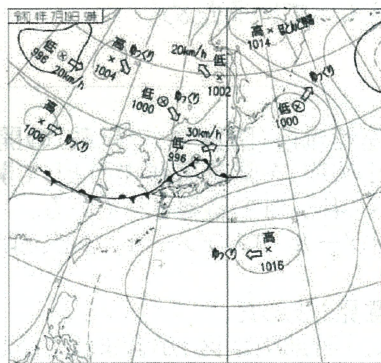
概要

令和4年7月19日は、日本海を東進する低気圧と前線に向かって流れ込む暖かく湿った空気により、大気の状態が非常に不安定となり、滋賀県では記録的な大雨となった。

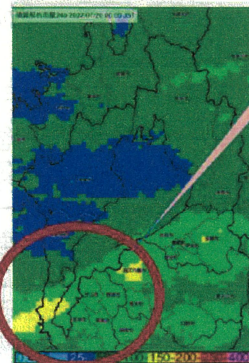
衛星画像 2022年7月19日9時



19日9時の地上天気図



19日00時~20日00時の24時間解析雨量



近江南部で
降水量が多
くなった。

7月19日における湖南市の動き

日付	時刻	気象状況等
7月19日 (火曜日)	11時39分	大雨警報（土砂災害）発表
	11時50分	土砂災害警戒情報発表
	11時53分	大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報発表 警戒体制発令
	12時05分	高齢者等避難【警戒レベル3】発令
		災害警戒本部設置
		避難場所開設 ・菩提寺まちづくりセンター（菩提寺西4丁目2番12号） ・石部防災センター（石部中央四丁目1番7号）
	16時	野洲川横田橋の水位が1.5m（水防団待機水位）を超過
	17時04分	洪水警報解除
	17時10分	土砂災害警戒情報が解除
	17時45分	高齢者等避難【警戒レベル3】解除 災害警戒本部廃止、警戒体制に移行
	19時20分	野洲川横田橋の水位が1.5m（水防団待機水位）を下回る
23時06分	大雨警報（土砂災害）解除、大雨注意報発表 警戒体制解除	

避難情報の発令について

今回、2地区に対して避難情報の発令を行いました。

地区	世帯／人口	理由	避難場所
菩提寺	444世帯 1332人 ※土砂災害警戒 区域内の住民	土砂災害の危険性が高まったことによる。 (土砂災害キキクルで紫色が出現) 大津から近江八幡間の線状降水帯が継続してかかっており、市内他地区と比較しても危険性が高い状態	菩提寺まちづくり センター (避難者なし)
石部	1842世帯 4230人	降雨危険度が高く、実際に浸水被害の報告が入っているため。	石部防災セン ター (避難者1名)

※急激な降雨のため本来の緊急避難場所(防災マップ記載)の開設は困難と判断、

地区連絡所(災害時の市職員出張所)を緊急避難場所として開設した。

※その他岩根まちづくりセンターへ2名が自主避難されている。

※防災行政無線のほか、緊急速報メール(エリアメール)など、保有するすべての手段を用いて周知を行った。

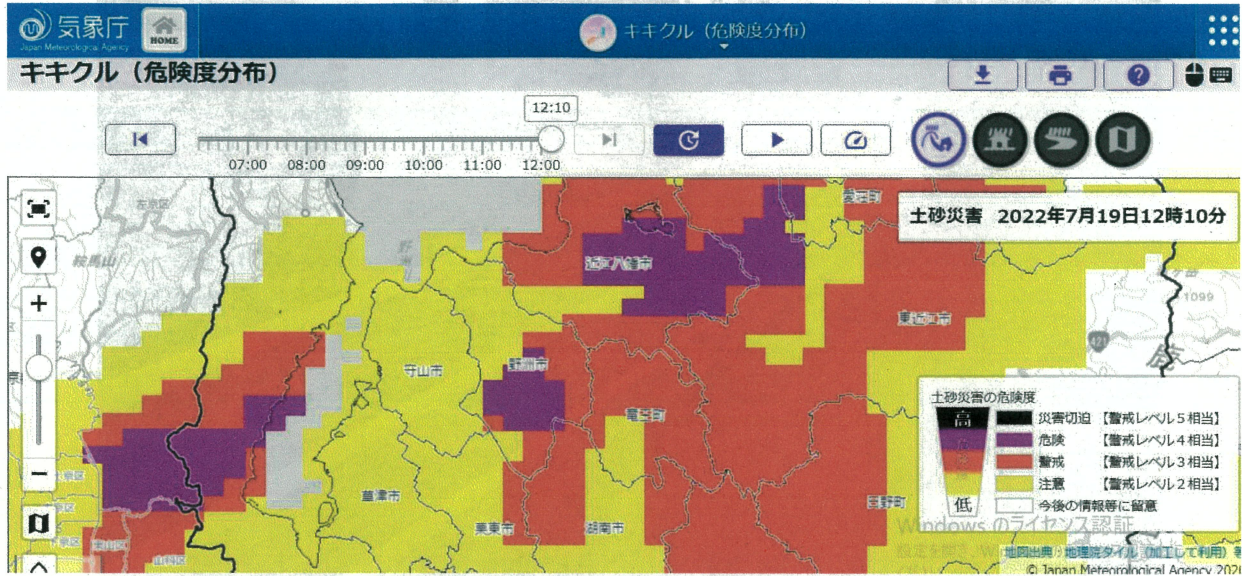
※対象地区がわかりにくいという意見もあった。

例として、単に「石部地区」では、「石部南地区」が含まれていないのわかりづらい場合が考えられる。状況によっては「石部小学校区」とするなど工夫が必要。

7月19日12時10分時点での土砂災害危険度分布(キキクル)の状況

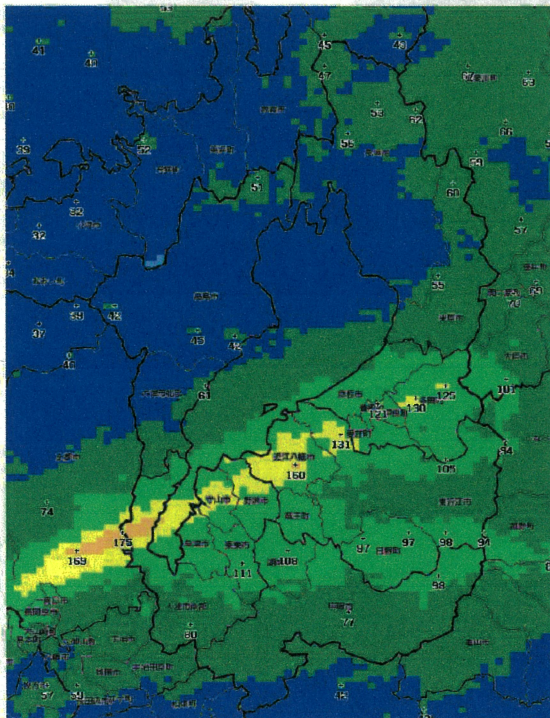
京都市から近江八幡市にかけて発生した線状降水帯により、菩提寺地区の土砂災害危険度が急激に上昇。一部では警戒レベル4相当の『危険』と判定された。

土砂災害警戒情報が発表されたこと、今後も降り続ける恐れがあることから菩提寺地区の「土砂災害の危険がある地区」に対して高齢者等避難【警戒レベル3】を発令しました。

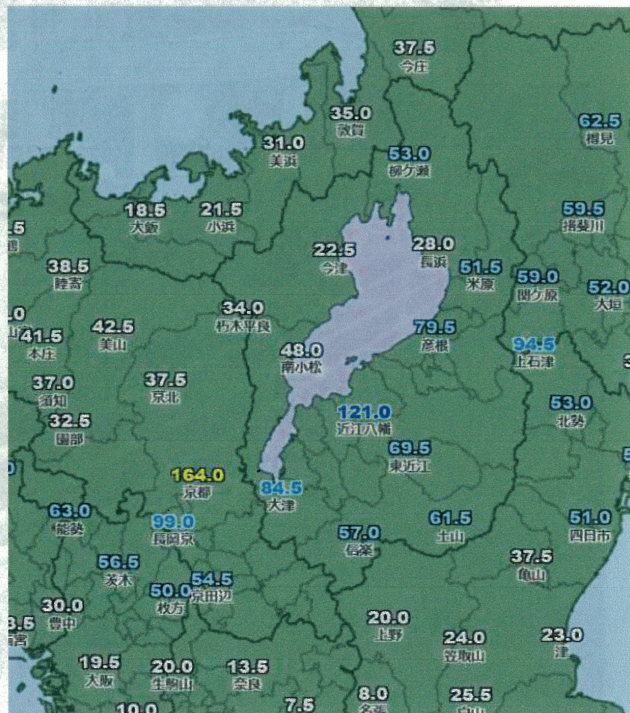


雨量実況 (解析雨量・アメダス)

19日16時現在 彦根地方気象台



15時00分までの12時間解析雨量



15時00分までの24時間降水量 (アメダス)

石部地区(湖南省市西庁舎)における状況



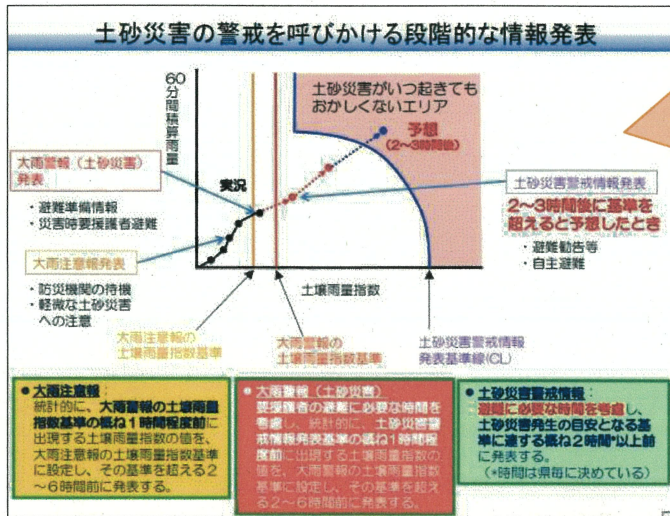
石部地区(湖南省市西庁舎)における状況 【平時】



防災士の皆さんへお伝えしたいこと

地域の防災リーダー、区長等の参謀役として積極的に情報の収集、発信をしていただけると助かります。

湖南省市防災士連絡会会報(第3号)、第1回および第2回スキルアップ研修会資料にて、雨量と土壌雨量指数(蓄積雨量)との関係を示す雨量判定図の『スネーク曲線』(下記図)の解説が掲載されています！



滋賀県土木防災情報システム (<https://shiga-bousai.jp/index.php>) の『土砂災害降雨危険度』で誰でも確認することができます！



スマートフォンでも閲覧できます。

令和4年8月3日からの大雨における防災士の活躍

関川村朴坂の防災士、佐藤隆平さん(72)がNHKの電話インタビューに応じ、介護が必要で避難所に行くことが難しい高齢の母親を自宅の2階に「垂直避難」させたことなどを話しました。

佐藤さんは、**3日は自主防災組織と協力し、地元の土砂災害警戒区域となっている山のふもとに近い住民の避難を手伝った**ということです。

一方、佐藤さんと一緒に暮らす高齢の母親は介護を受けていますが、**避難所に行くことは難しいと判断し、自宅の2階に「垂直避難」した**ということです。けがなどはなかったということです、自宅は床下浸水したということです。

佐藤さんは「きょう午前1時ごろには恐怖感を感じるような雨だった。雨で恐怖感を覚えることはあまりなく、50年ほど前の羽越水害以来の雨に感じる」と話していました。

電話インタビューは固定電話で行いましたが、佐藤さんによりますと、携帯電話は圏外の状態になっているということです。

佐藤さんは「**携帯電話から天気図の情報などを見ているので困っている**」と話していました。

出典: NHK新潟放送局NEWS WEB (8月4日11時51分)

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/niigata/20220804/1030022078.html>

防災士の活動内容については各区、自治会で異なるため、参考になると一概には言えませんが、**正しい知識を持った防災士が、正しく災害を恐れることのできた例**と言える。